

SMALL VOICES, BIG DREAMS 2016

A SURVEY OF MORE THAN 6,000 CHILDREN AROUND THE WORLD
REVEALS THEIR VIEWS ON EDUCATION AND SCHOOL



ChildFund
Alliance



チャイルド・ファンド・アライアンス
事務局長
メグ・ガルディニエール

チャイルド・ファンド・アライアンスが世界の子どもたちを対象に学校や教育についての調査を実施するにあたって、子どもたちが、学校へ通うことは大切だと回答することは予想していました。ただ、10歳から12歳の6,000人以上の子どもたちの、実に98%が教育は絶対に大切である、と答えたことには感動を覚えました。

子どもたちは、新しいことを学ぶことや、先生と勉強することなどが大好きだということが分かりました。およそ半数の子どもたちが、教育は大人になった時により良い仕事に就くために役立つと答えました。また、子どもたちの多くは、教育が彼らの国に変化を起こしたり、彼ら自身をよりよい人間にすると考えています。

あまり良くない結果として、「学校はいつも安全だ」と回答した子どもは、世界でわずか60%だけでした。平均して3%の子どもは「学校は常に安全ではない」と答えており、ある国では残念ながら、20%の子どもが「学校は常に安全ではない」と答えています。

学ぶためには、安全であることが前提なので、この調査結果は問題です。2015年9月に持続可能な開発目標（SDGs）が採択されたとき、世界のリーダーたちは安全で、有意義な教育の重要性を認識していました。SDGsの目標4には、「すべての人に包括的で公平な教育を保証し、生涯にわたって学ぶ機会を促進する」と書かれています。

チャイルド・ファンド・アライアンスは子どもたちに安全で質の高い教育の機会を提供し続けます。皆さまからのご支援によって、世界中の多くの子どもたちが教育を受ける機会を得ていることに感謝します。皆さまなくしてはできなかったことです。

質問 1 「もしあなたが、あなたの国のリーダーだったら、教育や学校を良くするために何をしますか？」



「もし私がケニアの大統領だったら、ストリート・チルドレンを集めて、教育を受けるために学校に通わせます。」

（マーガレット、12歳、ケニア）

全体のおよそ半数の子どもたち（47%）が、学校の設備を改善し、より良い学習環境をつくる、と答えました。途上国の子ども（56%）の方が先進国の子ども（19%）よりもそのように答えました。

	全体	途上国	先進国
学校設備を改善する。質の高い学習環境をつくる。	47%	56%	19%
制服、文房具を配布する。教室に本や機器を設置する。	27%	31%	15%
特にスポーツや芸術のカリキュラムを改善させる。	24%	18%	43%
教育の質を向上させる。	24%	27%	14%
学校や生徒により多くの経済的支援をする。	24%	25%	22%
物理的にも感情的にも危険を感じないような安全な学校にする。	6%	5%	7%

質問 2 「何が学校で一番好きですか？」



「新しいことを学ぶことが好きです。特にコンピューターのスキルを勉強するのが好きです。」

(デミアン、10歳、ボリビア)

半分以上の子どもたち（47%）が、「新しいことを学ぶこと」が学校で一番好きだと答えました。途上国の子どもでは半分以上（51%）でした。「先生と勉強すること」も途上国で35%と高く、先進国では「友だちといること」が48%と多い回答でした。

	全体	途上国	先進国
新しいことを学ぶこと	47%	51%	35%
先生と勉強すること	29%	35%	11%
友だちといること	26%	19%	48%
体育、図工・美術、レクリエーション	14%	12%	19%

質問 3 「学校や教育は重要ですか？その理由は？」



「私にとって学校はとても大切です。学校に行くことで、大人になって良い仕事につくことができます。」

(カディージャ 11歳、バングラデシュ)

すべての国のほとんどすべての子どもたち（98%）が「学校や教育は大切」と考えていることがわかりました。その中でも15の国ではすべての子どもが「学校や教育は大切」と答えました。この回答から、子どもたちは学ぶことが大好きで、その意味を理解していることが明らかになりました。「学校や教育は大切」ではないという回答が多かったのは、韓国（7%）、カンボジア、日本（5%）、アメリカ、オーストラリア（4%）でした。

	全体	途上国	先進国
はい	98%	99%	96%
いいえ	1%	0%	3%

	全体	途上国	先進国
大人になってから良い仕事につくことができるから	45%	40%	64%
教育は自分をより良い人間にしてくれるから	23%	23%	24%
教育によって親の世話をする助けになるから	17%	20%	6%
教育を受けることで違えることができるから	17%	17%	16%

質問 4a 「安全な学校とはどういう意味ですか？」



「私にとって安全な学校とは、算数とスペイン語と理科に集中できる、という意味です。」

(ダイアナ、10歳、メキシコ)

学校での安全について、全体の約 1/3 (28%) の子どもたちが「物理的にも感情的にも虐待のリスクが無いこと」と答えました。子どもたち全体の 17%が「校舎や設備が清潔で安全で、手入れが行き届いている」のが安全な学校と答えました。また、14%の子どもは、先生が信頼でき、尊敬できること、と答えました。

質問 4b 「それでは、その意味で、学校はどれくらい安全ですか？」



学校では、緊急の場合や事故が起きた時には、校長先生や先生や友だちが、安全を守ってくれます。

(ワルジャニ 12歳、スリランカ)

回答	全体	途上国	先進国
学校はいつも安全です	60%	60%	58%
学校は安全ではない時もあります	31%	32%	29%
学校は安全ではありません	3%	3%	1%

全体の 60%の子どもたちが「学校はいつも安全」と答えました。3%の子どもたちは「学校は安全ではない」と回答しました。

質問6 「家族の手伝いをするために、学校を休まなければなかったことはありますか？」



「コーヒーの収穫の手伝いをするために、学校を休んだことがあります。」

(サビエル、12歳、東ティモール)

	全体	途上国	先進国
はい	26%	31%	8%
いいえ	72%	67%	89%

全体の約1/4（26%）の子どもが家庭、家族の仕事のために学校を休まなければいけなかったことがある、と答えました。途上国の子どもたちの方が、先進国の子どもたちよりも多く、家族のために学校を休んだことがある、と回答しました。

【ディスカッション】

戦争やテロや自然災害は子どもたちにどのような影響を与えるのでしょうか？



「地震が起きてからは家にいたくない。学校に行きたい。」

(アニール、10歳、ネパール)

すべての子どもは暴力、虐待、搾取やネグレクトを受けず、生存し、成長する、普遍的な権利を生まれながらに持ちます。しかし、10億人以上の子どもたち（世界中の子ども半数以上）が毎年、暴力にさらされています。戦争やテロ、自然災害などの環境の中にあっても、子どもたちはまわりの世界を観察しています。環境は、子どもたちがどのように安全を感じるかに影響を与えます。

今年の「Small Voices, Big Dreams（子どもたちの小さな声、大きな夢）」調査では、危険な環境で暮らす子どもたちの声が目立つ結果となりました。

チャイルド・ファンド・アライアンスの2016年～2021年の計画で私たちは、チャイルド・プロテクションに焦点をあてて、子どもに対する暴力の防止、災害被害の軽減、そして緊急対応能力の拡大を提唱しています。子どもたちにとって安全な世界を目指して、活動を続けます。